



MITSUI CHEMICALS, INC.

三井化学

経営概況説明会

2011年5月18日

三井化学株式会社

社長 田中 稔一

去る3月11日に発生した東日本大震災に際して、改めて犠牲になられた方々とご遺族の皆様、深くお悔やみを申し上げるとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心より祈念致します。

当社グループとしましても、日本の復興に向け、総力を挙げ、被災された方々への支援、必要な生活物資の生産・供給、節電への協力等を通じ、最大限の社会貢献を行ってまいります。

〔目次〕

1. **2010年度決算**
2. **2011年度の取組み**
 - ・ **11年度業績予想**
 - ・ **“5－5－5戦略”の状況**
 - ・ **11中計達成に向けて**

2010年度 営業損益状況(連結)

摘 要	09年度 決算	10年度 決算	増減	(億円)
売上高	12,077	13,917	1,840	
営業利益	△95	405	500	
営業外損益	△36	△16	20	
経常利益	△131	389	520	
特別損益	△30	61	91	
税金等調整前当期純利益	△161	450	611	
当期純利益	△280	249	529	
為替レート(円/\$)	93	86	△7	
国産ナフサ(円/KL)	41,200	47,500	6,300	
有利子負債	4,942	4,807	△135	
自己資本	3,773	3,837	64	
D / E レシオ (倍)	1.31	1.25	△0.06	
年間配当	3円/株	6円/株	3円/株	

2010年度 本部別営業損益状況(連結)

セグメント	09年度 決算	10年度 決算	増減	増減内訳		
				数量差	交易条件	固定費他
石 化	△34	128	162	53	30	79
基礎化学品	△48	204	252	39	164	49
ウレタン	△21	△90	△69	22	△103	12
機能樹脂	△44	72	116	64	1	51
加工品	8	14	6	19	△12	△1
機能化学品	74	100	26	10	8	8
その他	△30	△23	7	0	0	7
合 計	△95	405	500	207	88	205

10年度 震災の影響額: **約△20億円**

〔目次〕

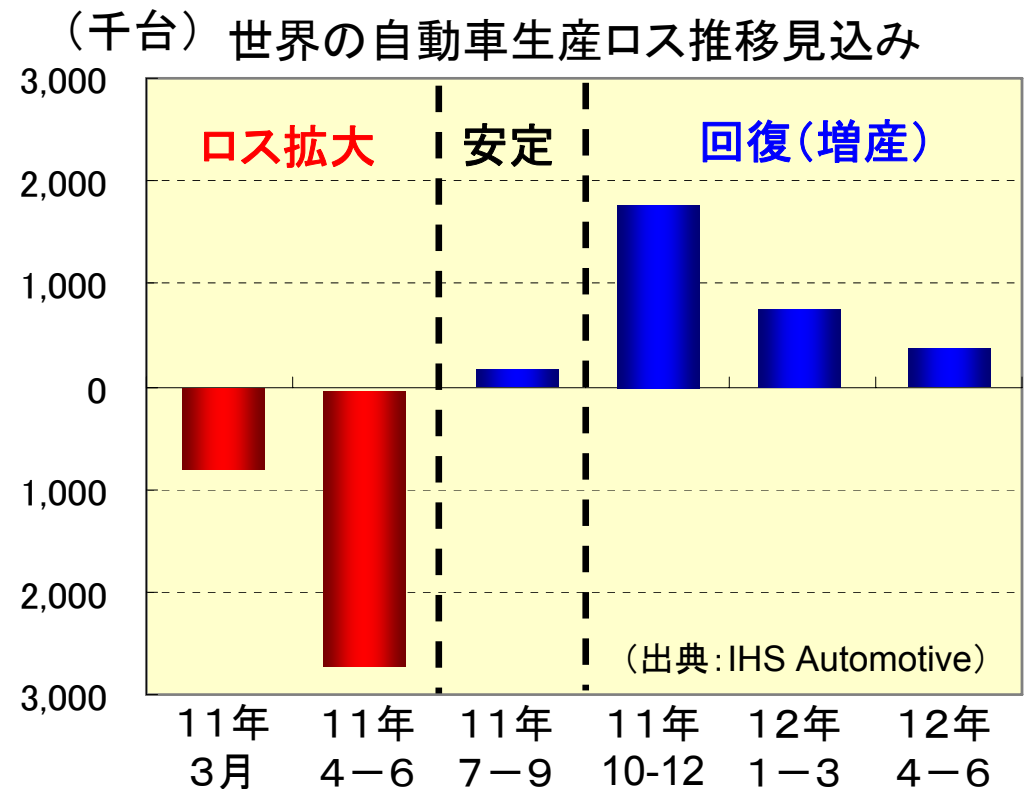
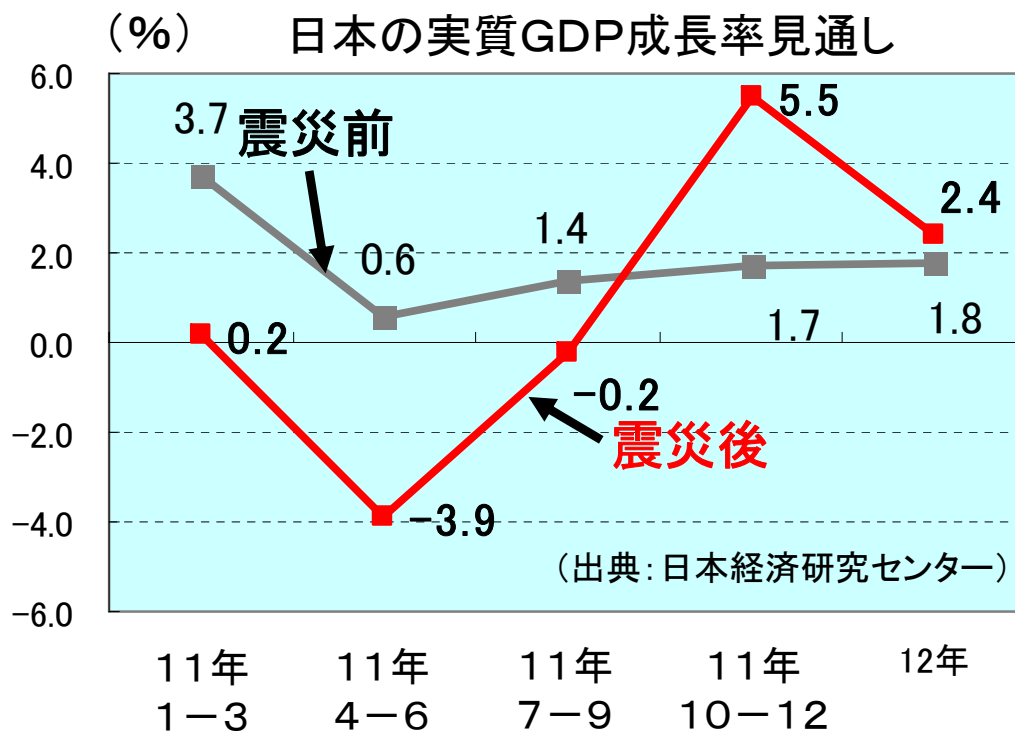
1. 2010年度決算

2. 2011年度の取組み

- ・ 11年度業績予想
- ・ “5－5－5戦略”の状況
- ・ 11中計達成に向けて

2011年度予想 日本の需要動向

内需動向：震災の影響により上期は大幅に落ち込む
下期には復興需要により改善見込み



11年通年 (震災前) 1.5、(震災後) Δ0.1

2011年度予想 当社の前提

◇ 震災の影響

主要工場には大きな被災無し

- ・以下の工場が影響を受けたが、鹿島工場を除き**フル稼働**
(市原、鹿島、茂原、三井化学東セロ/茨城・古河・勝田、三井化学アグロ/船岡)
- ・停止中の鹿島工場：**6月下旬定修明けより再開予定**

◇ 東京電力の削減の影響

- ・**25%削減**ケースを前提に予算編成
- ・茂原分工場、三井化学東セロで若干の減産を織り込んで
いるが、西日本及び海外への生産シフト等により**影響軽微**

◇ 需要動向

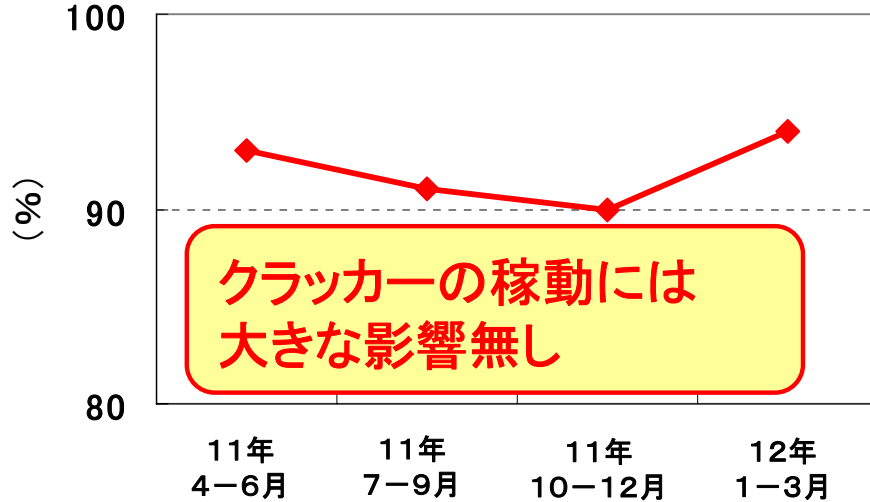
主要顧客業界(自動車、電子情報分野等)の**震災後の需要動向**を織り込む

⇒ 11年度 震災の影響額: 約△90億円

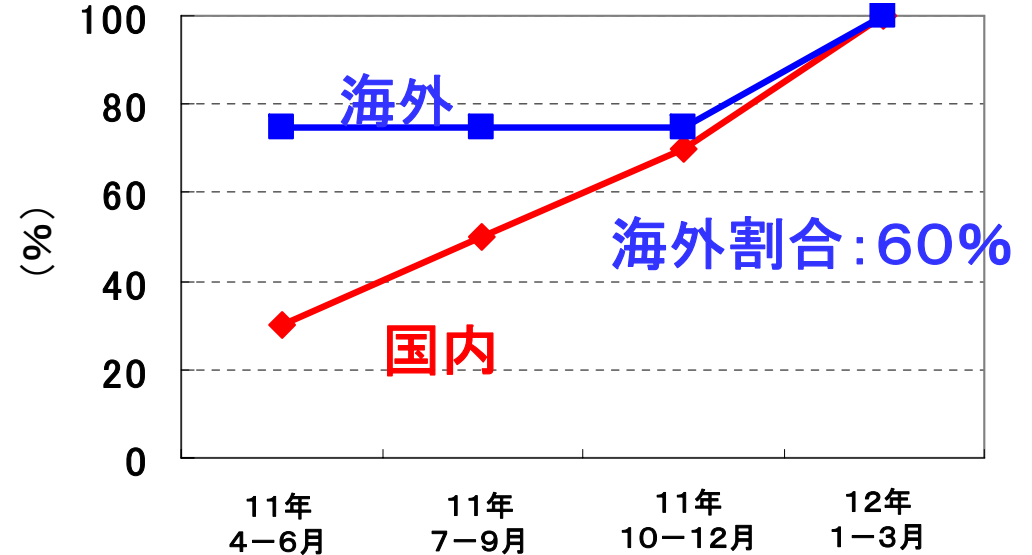
主要製品の需給見通しー1

<石化>

当社ナフサクラッカー稼働率

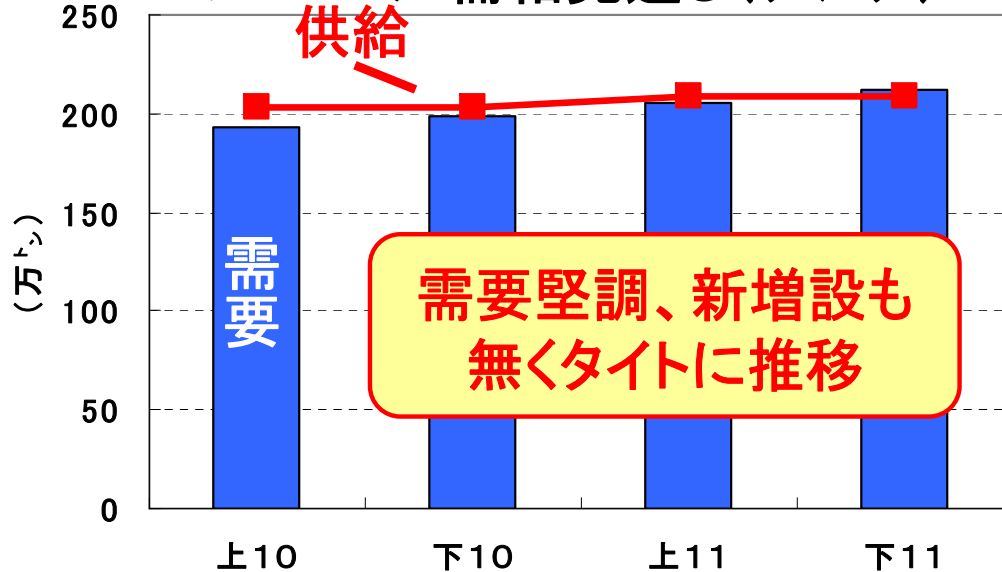


当社の自動車向けPP販売(対震災前見込)

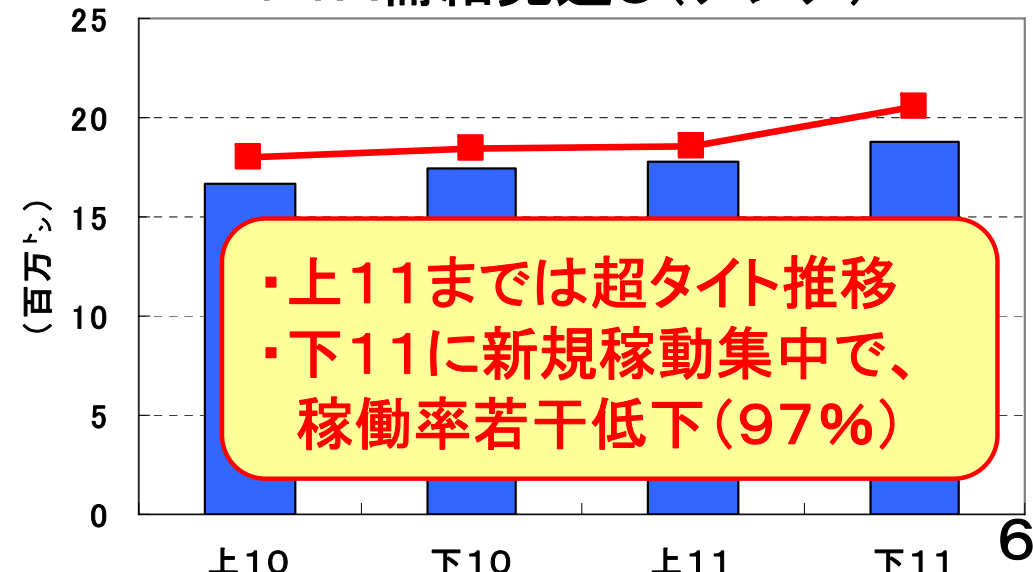


<基礎化学品>

フェノール需給見通し(アジア)



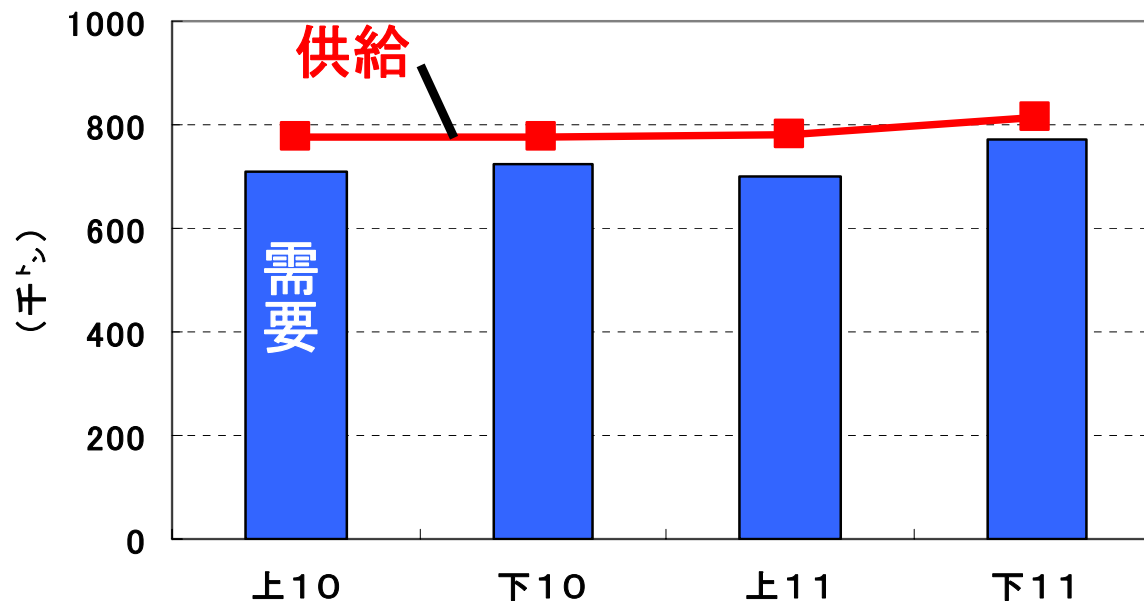
PTA需給見通し(アジア)



主要製品の需給見通しー2

<機能樹脂>

エラストマー(EPT+タフマー)需給見通し(世界)



自動車生産減から一時的に需要減だが、**基本的にはタイト継続**
(稼働率: 90%以上)

<加工品>

ソーラーエバ: アジアにおける太陽電池需要旺盛のため**タイトに推移**
⇒ **当社はフル稼働継続**

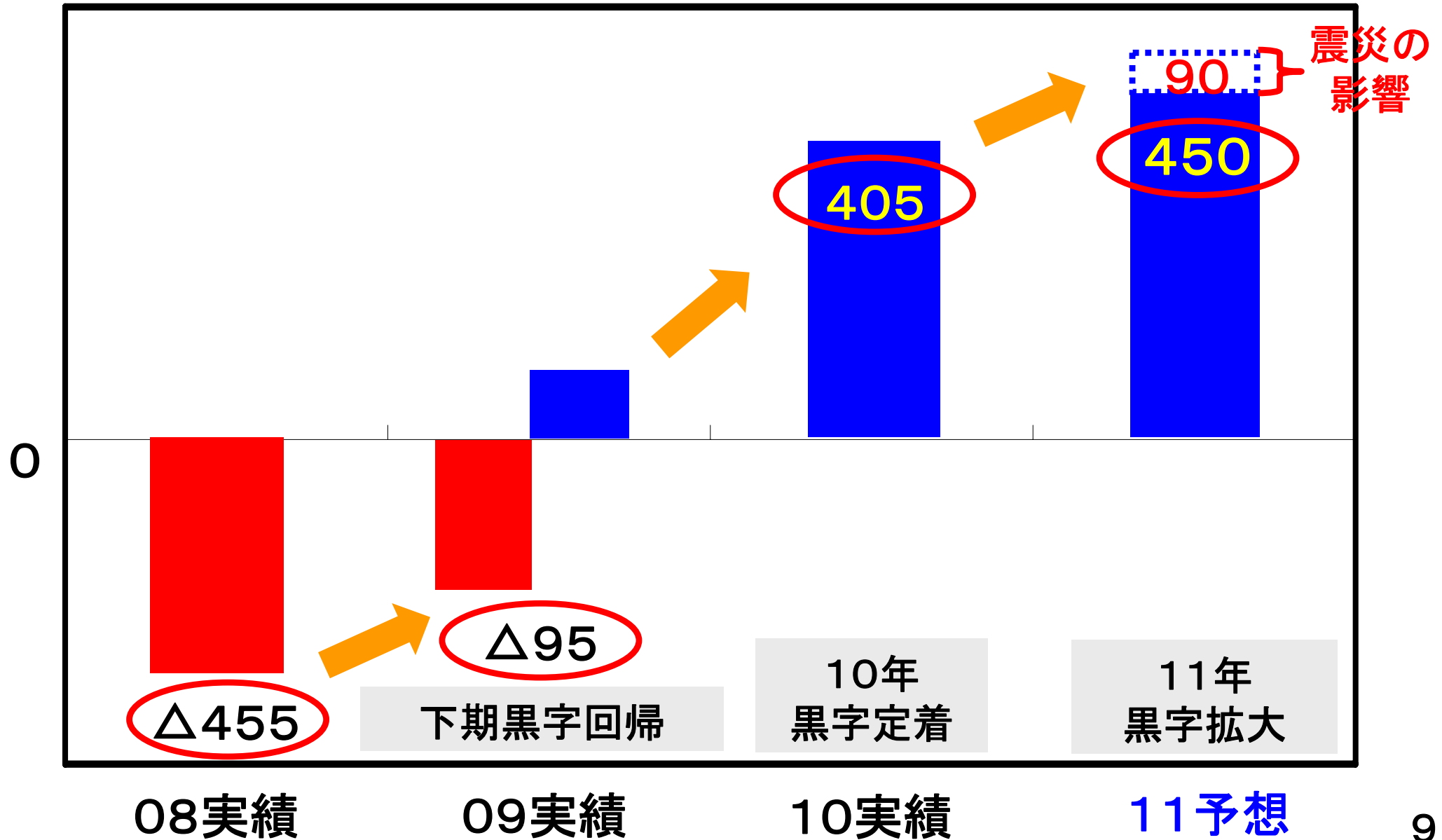
2011年度 本部別営業損益の見通し

(単位:億円)

セグメント	10年度 決算	11年度 予想	増減	増減内訳		
				数量差	交易条件	固定費他
石 化	128	110	△18	△8	△6	△4
基礎化学品	204	200	△4	20	0	△24
ウレタン	△90	△75	15	8	△12	19
機能樹脂	72	95	23	33	9	△19
加工品	14	40	26	16	△5	15
機能化学品	100	100	0	18	△9	△9
そ の 他	△23	△20	3	0	0	3
合 計	405	450	45	87	△23	△19

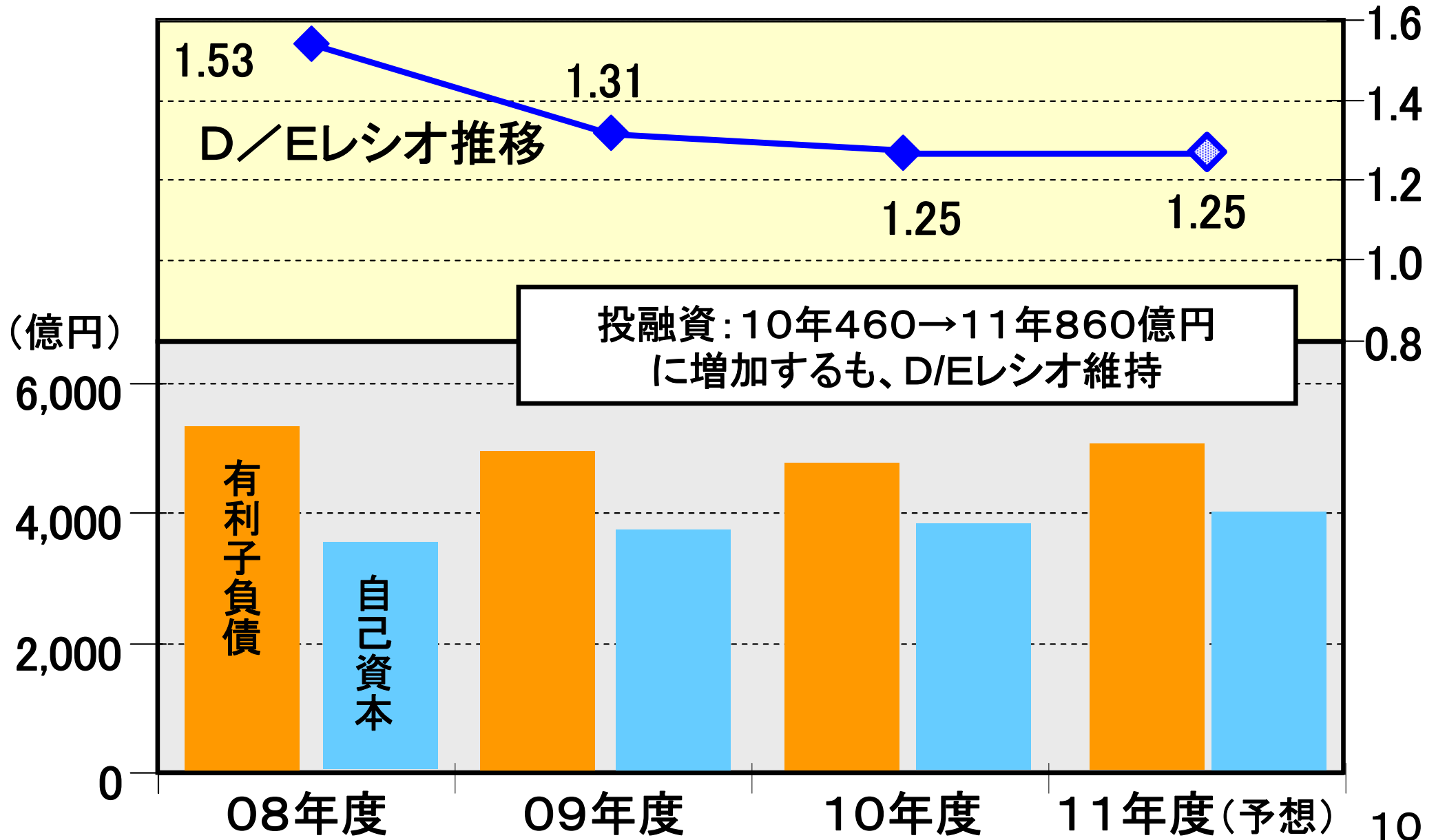
2011年度 営業損益の見通し

(営業利益: 億円)



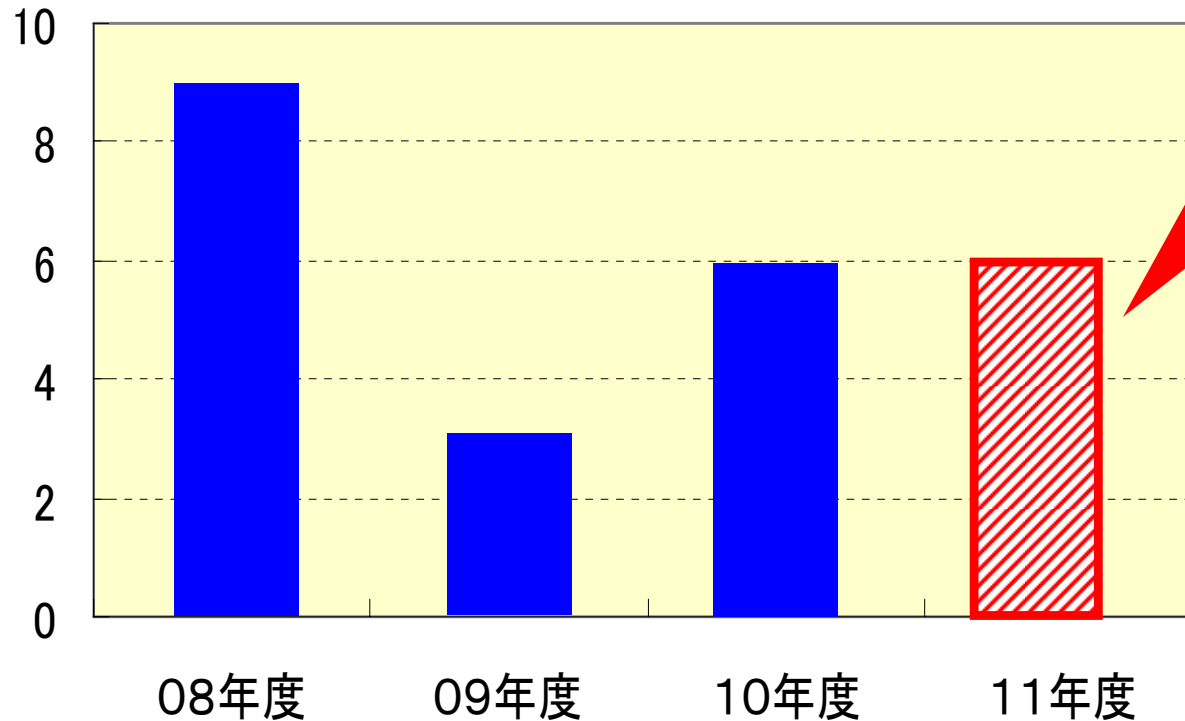
財務状況

財務体質とのバランスをとりながら、戦略実行を加速



2011年度の配当予想

(年間配当額、円/株)



11年度配当予想

中間: 3円/株

期末: 3円/株

年間: 6円/株

連結配当性向=29%

DOE=1.6

中計目標: 連結配当性向25%以上、かつ、DOE2%以上

〔目次〕

1. 2010年度決算

2. 2011年度の取組み

- ・ 11年度業績予想
- ・ “5－5－5戦略”の状況
- ・ 11中計達成に向けて

2011年度の課題

2011年度は、「11中計初年度」にあたる重要な年
⇒11中計戦略を一層「加速」する

【あるべき姿】

- ◇“成長性”と“永続性”を実現する事業ポートフォリオの構築
- ◇アジアを中心にグローバルに存在感のある化学会社

【11中計基本戦略】 “5-5-5戦略”

〔1〕景気変動を受け難い事業の拡大

重点5事業

〔2〕競争優位事業のグローバル拡大

世界トップ5事業

〔3〕将来のコア事業創出

育成5領域

〔4〕国内勝ち残り

“5—5—5戦略”の具体的な取組み

重点5事業	世界トップ5事業	育成5領域	国内勝ち残り
<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能フィルム・シート強化 2. 衛材用不織布事業の拡大 3. システムハウスの拡充 4. エンプラ・コンパウンドの拡大 5. 農業化学品事業の海外展開 <ul style="list-style-type: none"> ・医療用接着剤の開発 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高屈折率メガネレンズの拡大 2. Sinopecとの提携強化 3. メタロセンポリマー(エボリュウ)増強 <p><参考> エラストマーの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PPコンパウンド増強 	<p>熱線遮断フィルムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代封止シート ・軽量フィルム ・リチウムイオン電池材料 ・新規農薬 ・歯科材料 ・バイオポリウレタン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 石化事業の基盤強化 (LLP、PO合理化) 2. ウレタン原材料の事業再構築 3. 1-ヘキセン営業運転開始 4. 大阪工場EO顧客誘致 5. 帝人とのボトル用PET樹脂事業の統合 6. 大阪工場における地域連携の推進

1. 機能フィルム・シート強化

◇三井化学東セロ発足(10年10月、人員数1100名)



⇒11年4月に機能フィルム・シート統合完了

◇ソーラーエバ(太陽電池封止材)の増強

[設備増強]

・名古屋能力倍増(2⇒4万ト、11年8月完工)

[アジア進出]

・マレーシアに工場新設(1万ト、12年上期完工)

(SCIENTEX社JV)

・需要旺盛のため更なる増強

⇒世界トップクラスとしての事業拡大



2. 衛材用不織布事業の拡大

アジアでの紙おむつ需要拡大に伴い衛材用スパンボンド不織布の需要も急伸

＜中国＞**新設検討中**
地産地消型の供給機能

＜日本＞**高機能品増強中**
技術開発を担うマザー工場
生産能力:34→49千トン(1ライン)増強
(11年末完工)

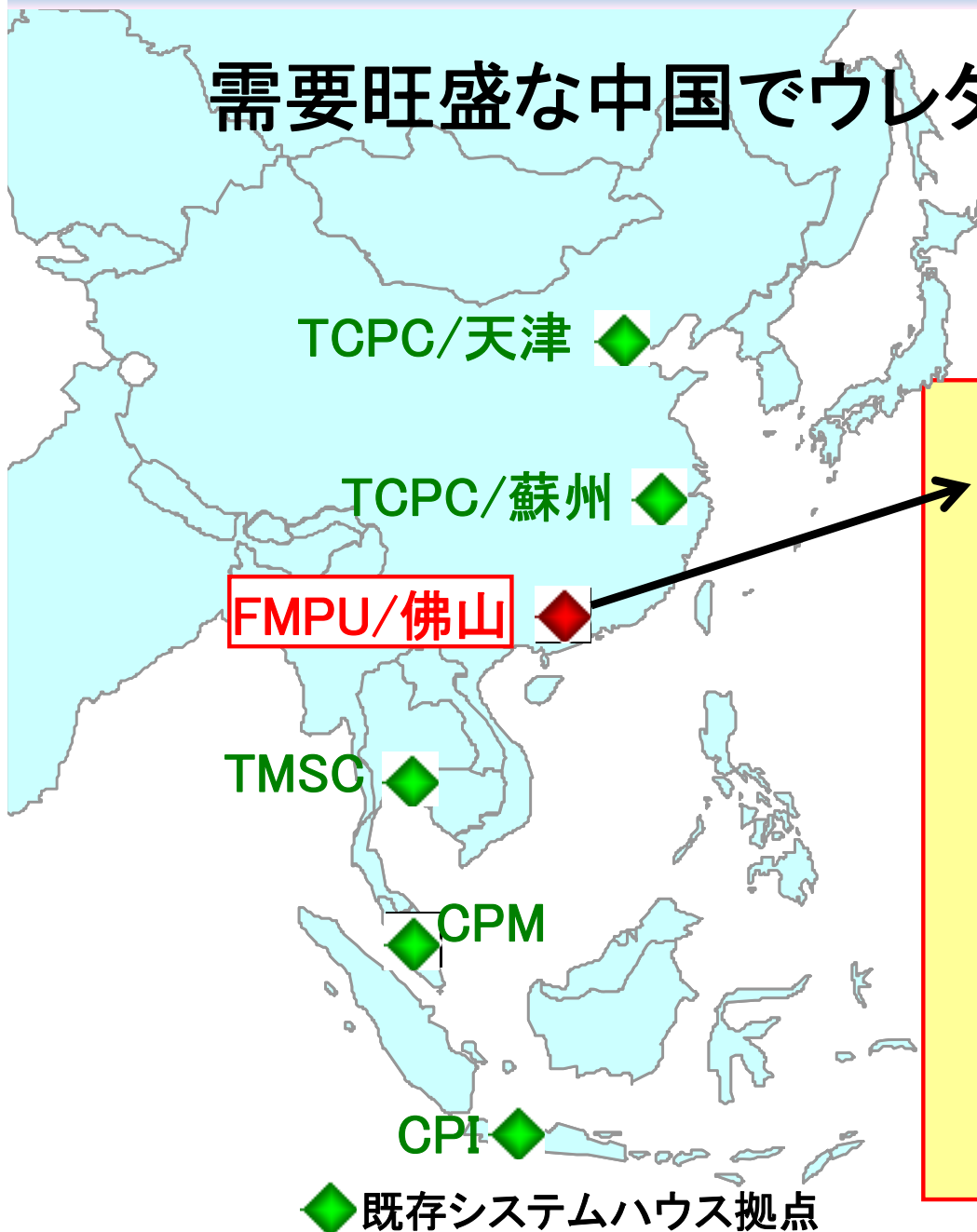
＜タイ＞**増強検討中**
アジア圏を中心とする輸出基地
(現行生産能力:30千トン)

3極体制を構築し、更なる増強も視野に入れ、スパンボンド不織布のアジアトップメーカーとしての地位を強固に

3. システムハウスの拡充

需要旺盛な中国でウレタンシステムハウス新設

ウレタンシステム販売の用途：
自動車シート、断熱材等



「佛山三井化学ポリウレタン」
11年5月営業運転開始

- ・能力：1万トン
- ・所在：広東省

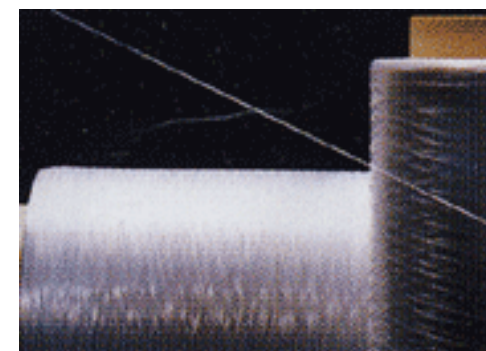
⇒アジア6拠点体制の確立



4. エンプラ・コンパウンドの拡大

超高分子量ポリエチレン(ハイゼックスミリオン)能力増強

⇒ **LiBセパレーター**, **高強度繊維**の
分野等で高い品質優位性を有する



<能力増強の概要>

- ・立地 : 岩国大竹工場
- ・能力増強: **5,000⇒7,500^{トン}/年**
(1ライン、+2,500^{トン})
- ・営業運転: 12年1月

5. 農業化学品事業の海外展開

- ・ 既存原体のグローバル市場での拡販
- ・ 海外事業拡大に向けた拠点の確保

インド・東南アジア地域
での事業拡大に向けた、
製造拠点確保 11年予定

米州・欧州 殺菌剤ペンチオピラド

D社と共同開発

12年 米国・英国上市予定

13年以降、順次、欧州各国上市予定

インド 殺虫剤ジノテフラン
11年上市予定

ブラジル 殺虫剤ジノテフラン
13年上市予定

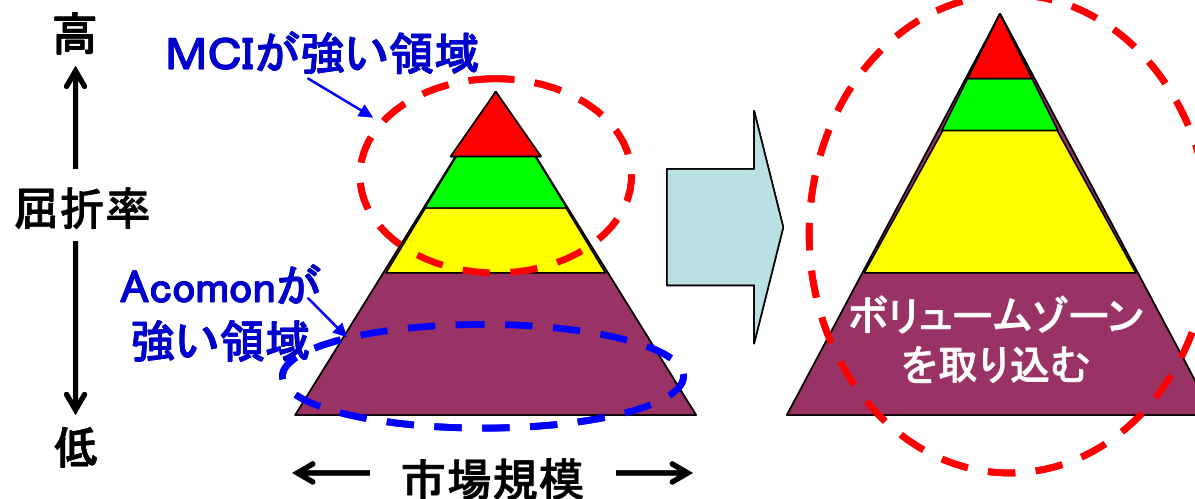
1. 高屈折率メガネレンズの拡大

◇ Acomon社(スイス)概要

- ・低・中屈折率メガネレンズ材料分野で世界トップクラス
- ・中国等新興国市場に強み
- ・グローバル販売ネットワーク保有



11年4月
Acomon社買収



「グローバルニッチトップ」(高屈折率メガネレンズモノマー世界シェア1位)

「グローバルトップ」(メガネレンズモノマー全体の世界シェア1位)

2. Sinopecとの提携強化

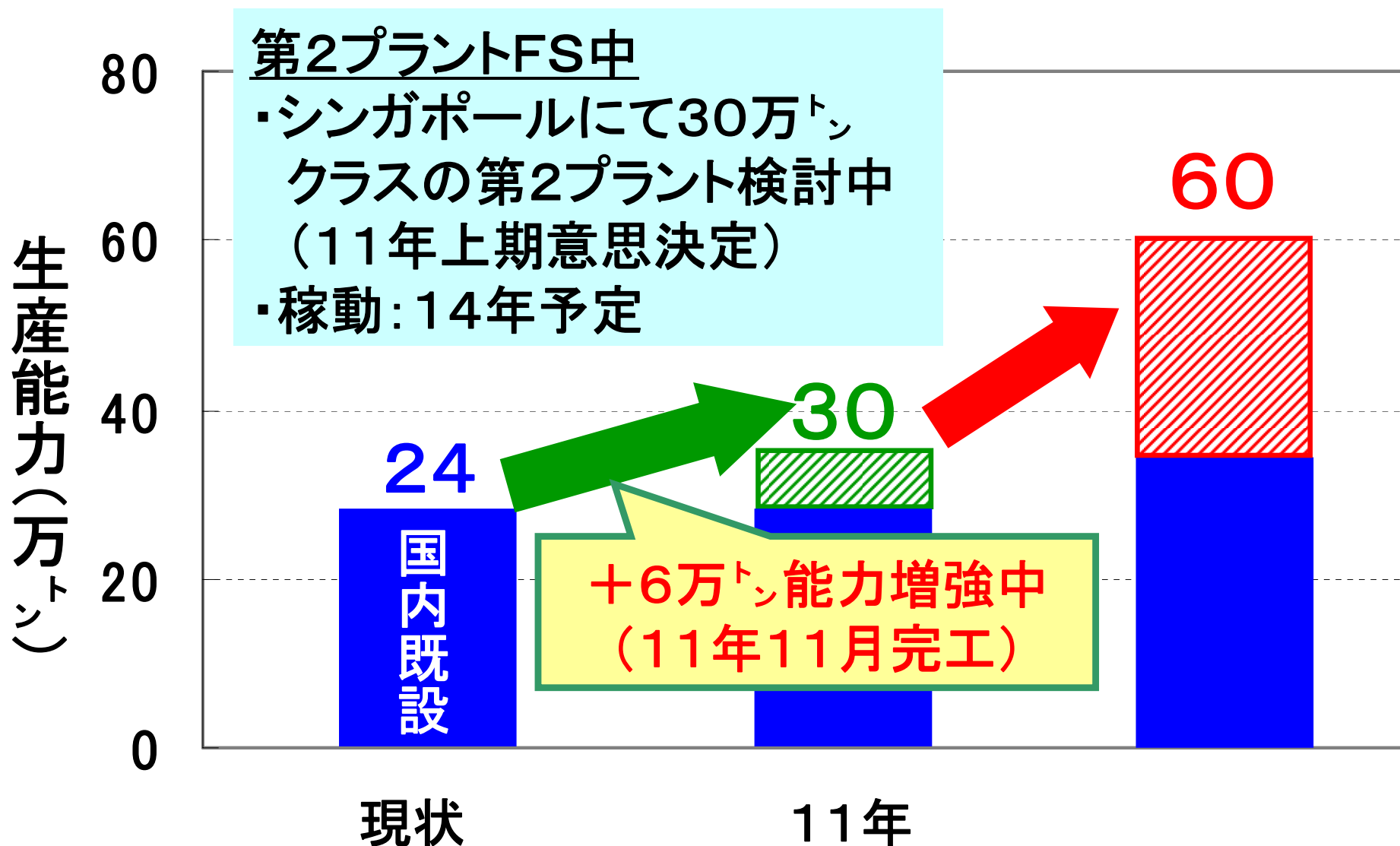
11年5月、Sinopecと合意

1. フェノール(25万ト、13年)、EPT(7.5万ト、14年)
新設計画は順調に進捗⇒**更なるスピードアップ**
2. 環境、エネルギー分野の**新規提携アイテム**の検討



3. メタロセンポリマー(エボリユ-)の増強

旺盛な需要に対応して、更なる能力増強を検討



(トピックス) 熱線遮断フィルムの開発

赤外線を遮断し、可視光のみを通す新規フィルムを開発
⇒窓などに貼ることにより夏場の冷房負荷低減に寄与

<特徴>

- ・ 熱遮断効果: $\Delta 5^{\circ}\text{C}$
- ・ 無粘着⇒糊不使用(脱着自由)
- ・ 可視光透過率: 80%
⇒暗くならない
- ・ 既存品と比較して
コスト競争力あり

近々、上市予定



1. 石化事業の基盤強化

1. LLP(千葉ケミカル製造)本格運営開始(10年10月)

- 11年度合理化目標:約10億円

2. ポリオレフィン事業(プライムポリマー)の競争力強化

①生産最適化

⇒宇部ポリプロ停止(PP:9万トン、11年3月)

②徹底的なコストダウン

⇒人員削減、生産・物流合理化等

11年度合理化:約40億円

⇒13年までに100億円の合理化を目指す

2. ウレタン原材料の事業再構築

1. 徹底的な構造改革

- ① **大牟田、鹿島工場のコストダウン**
(人員削減、排水費用削減 他)
- ② **事業本部経費、物流コスト等の削減**

2. MDIの抜本的な再構築を検討中

11年度合理化: **約30億円**
⇒15年までに**80億円**の合理化を目指す

3. 1-ヘキセン営業運転開始

◇ 1-ヘキセン製造プラントの**垂直立上げに成功**
⇒11年4月より**営業運転開始**

◇ 市原工場におけるエチレン系製品の高付加価値化
推進及び「エボリュー」事業の安定・強化に寄与

<1-ヘキセンプラント概要>

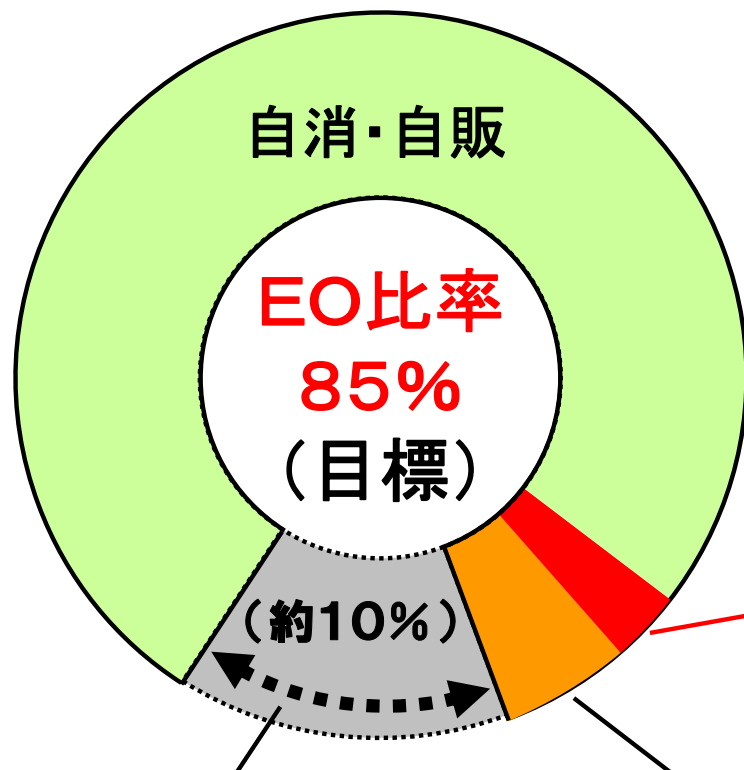
- ・用途: 高付加価値なPE「エボリュー」の副原料として使用
- ・生産能力: 3万トン
- ・技術: 当社独自の触媒技術
(従来の技術に比べ約600倍の活性)
- ・投資額: 75億円



1-ヘキセンプラント(市原工場)

4. 大阪工場 EO顧客誘致

EO比率の拡大によるエチレン高付加価値化の推進



更なる拡大を目指し
数社と誘致検討中

東亜合成とのリチウムイオン
電池電解液原料の合併事業化
(大阪工場)

- ・生産能力: 5,000^{トン}
(EO需要量: 2,500^{トン})
- ・11年5月着工、
11月末完工見込

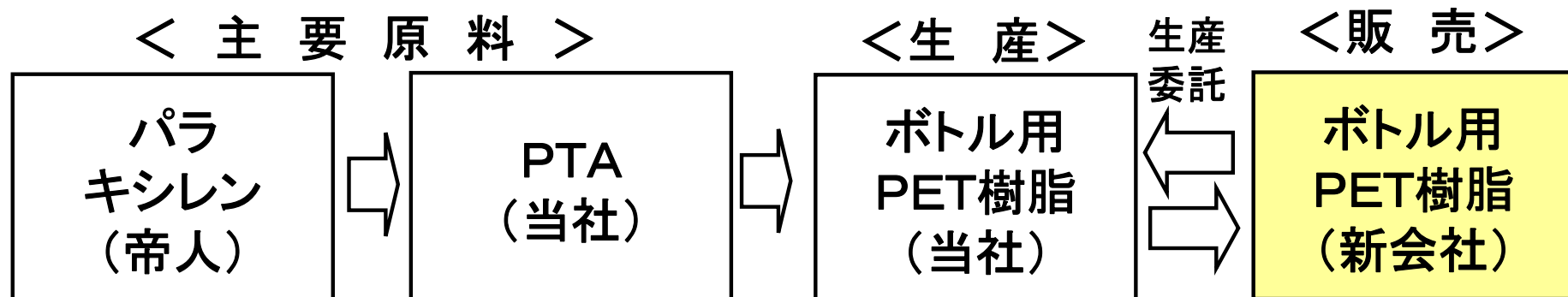
M社(09年4月営業運転開始)

5. 帝人とのボトル用PET樹脂事業の統合

新合弁会社「MCTペットレジン」営業開始(11年4月)

<統合の効果>

- ・生産の集約による操業度向上
(帝人/徳山のボトル用PET樹脂生産設備休止)
- ・帝人と当社のサプライチェーン一貫競争力の強化



6. 大阪工場における地域連携の推進

大阪ガスとの連携によるLNG冷熱利用(10年10月)

大阪ガスのLNG冷熱を大阪工場/エチレン製造装置に受け入れることにより既存の大型冷凍機の負荷低減

⇒ 3.8万トンの
CO₂削減効果



〔目次〕

1. 2010年度決算

2. 2011年度の取組み

- ・ 11年度業績予想
- ・ “5－5－5戦略”の状況
- ・ 11中計達成に向けて

1. 経営体制の強化

1. 経営のスリム化とスピードアップ

取締役数の削減(11年6月)

(14→11名:3名減)

⇒ **執行役員(本部長)の権限・責任の拡大**

2. 新製品開発、新事業の加速と、研究・技術 マネジメント強化

⇒ **R&D戦略室の新設(11年6月)**

3. 筋肉質な経営基盤の強化

・ **間接部門スリム化**

(13年までに**30%削減**→100名削減)

タフマー事業本社機能のMitsui Elastomers Singapore (MELS) への移管と強化(11年4月)

- ・ 目的:
旺盛なアジア需要をスピーディに獲得すべく、既に生産量・販売量の8割を取り扱っているMELSに移管
- ・ 移管内容: 事業戦略の策定、生産計画、技術サービス、販売、収益責任

<MELSの概要>

- ・ タフマー生産能力:
シンガポール20万ト_n、日本 5万ト_n
- ・ 従業員数: 約100名
- ・ 販売エリア: アジア55%、欧米25%、日本20%

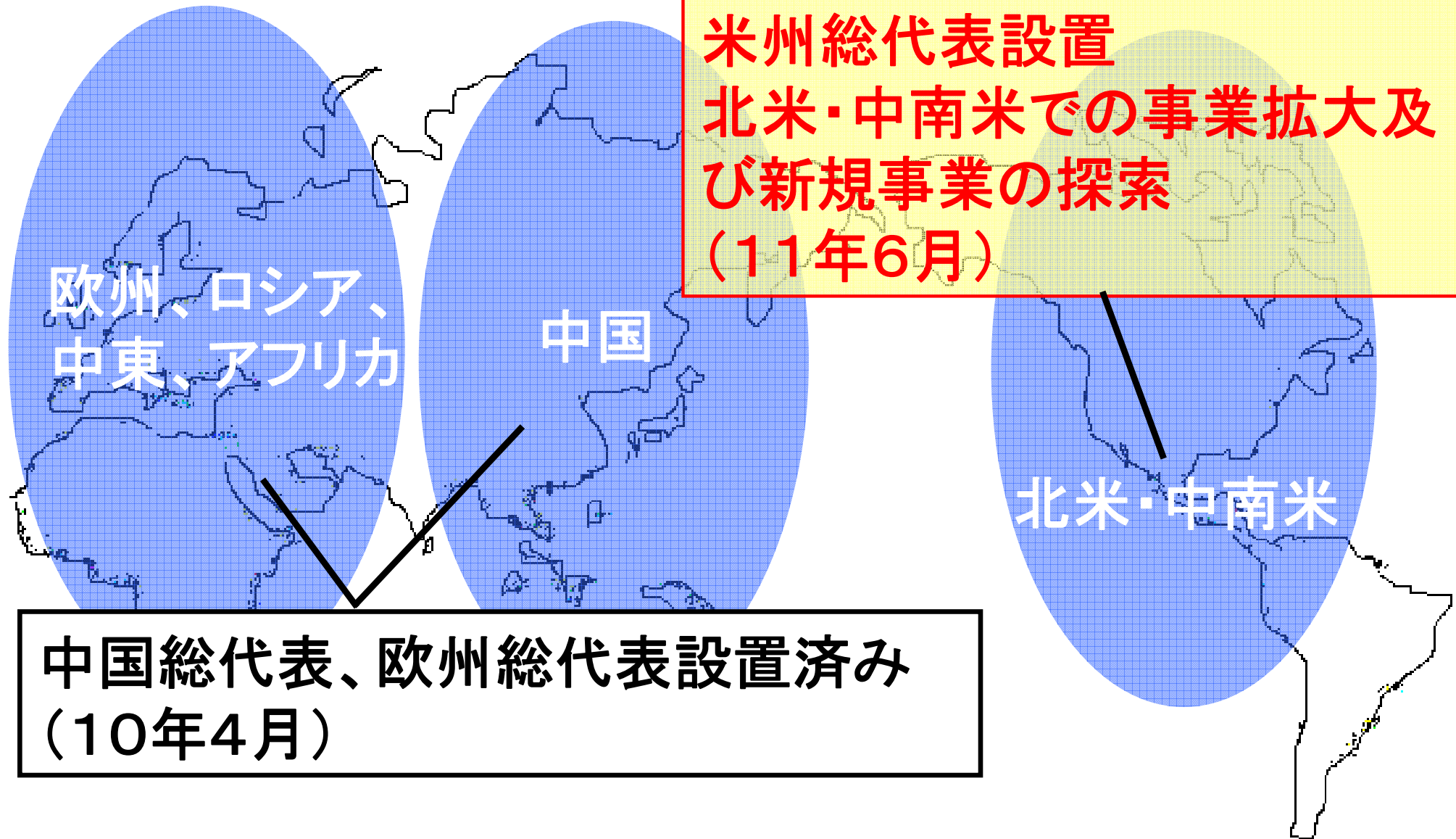
2-2 グローバル経営加速

「三井化学シンガポールR&Dセンター」独立、新設 (11年6月)

- ・目的:
 - ① バイオマス、メタン→ベンゼン技術他開発加速
 - ② シンガポール化学技術研究庁との最新技術交流
 - ③ ビジネスモデルの構築
- ・設立に伴い、増員(11→15名)
13年には20~30名体制
- ・本体研究本部と同格組織



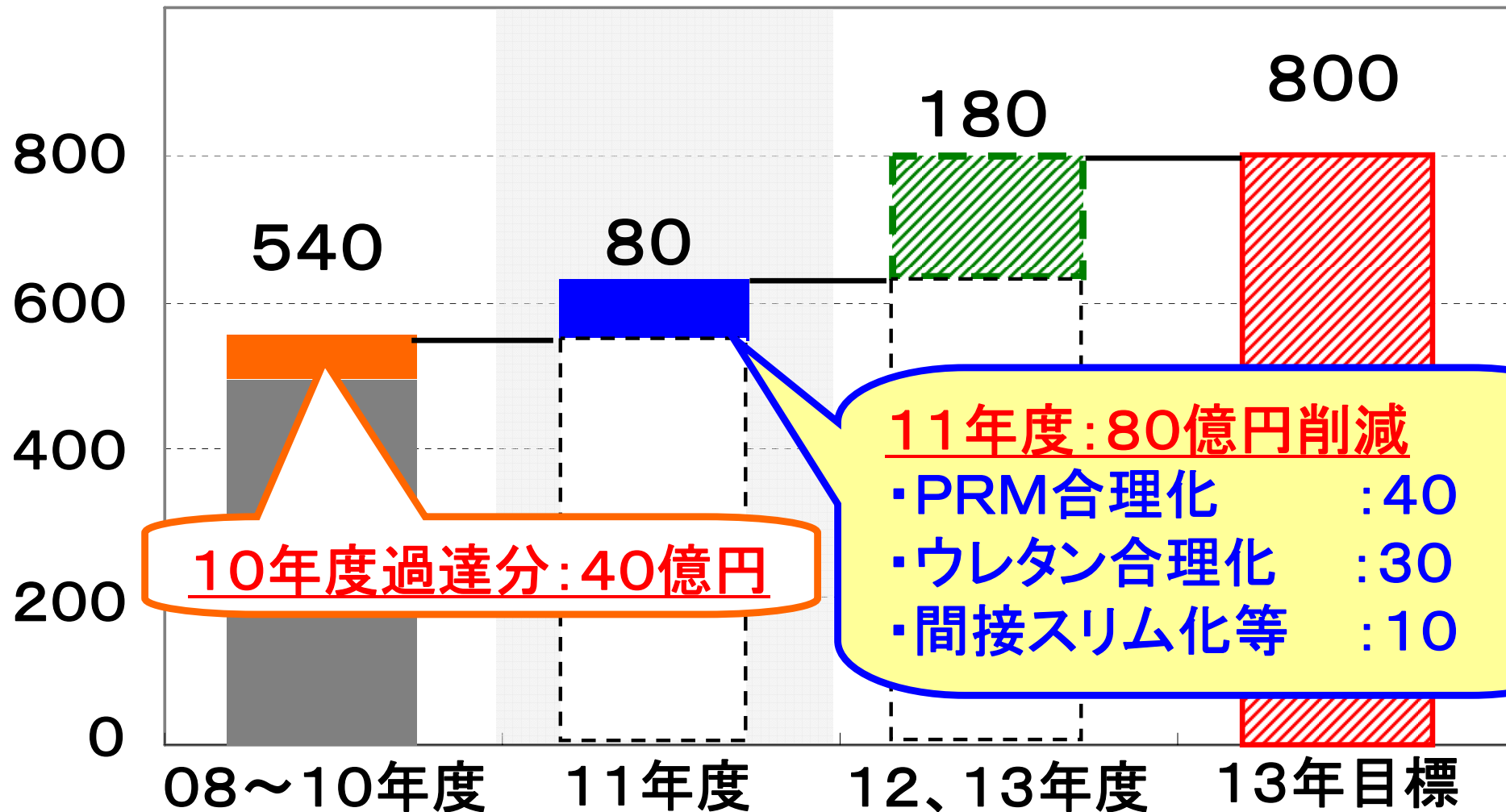
2-3 グローバル経営加速



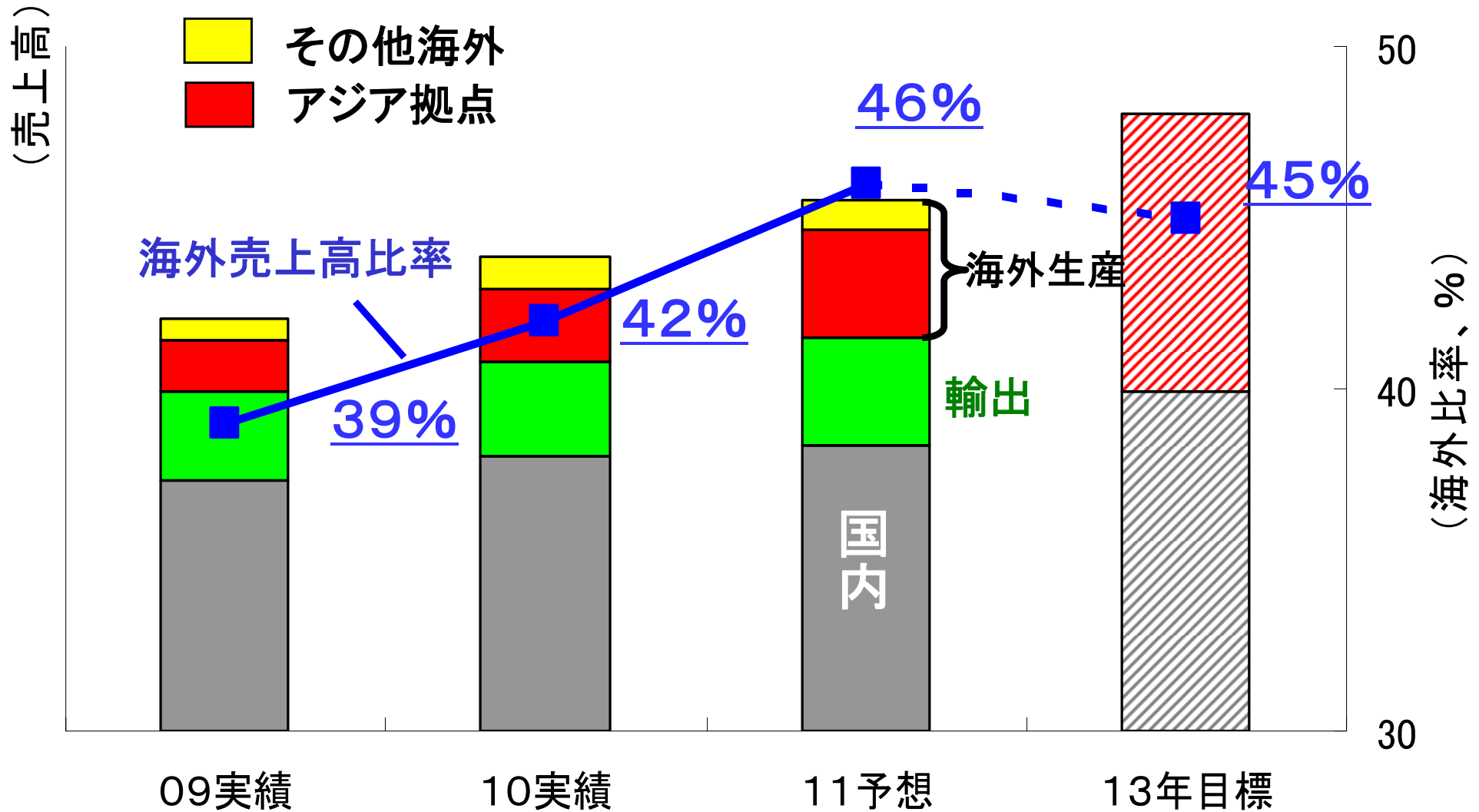
3.コストダウンの推進

11年度は**80億円**のコストダウンを計画

(億円)

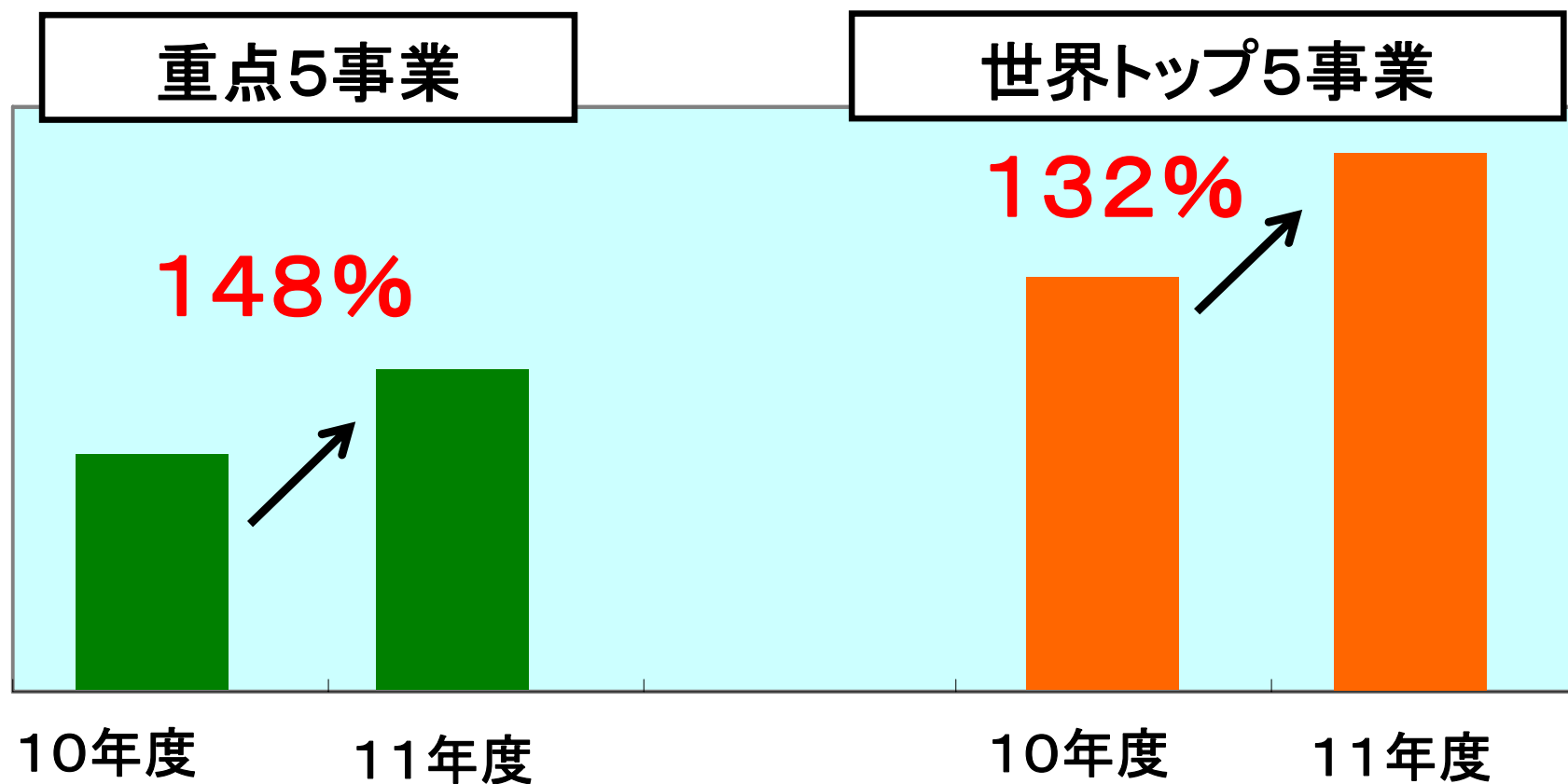


4.海外売上高比率の推移



- ・海外売上高比率、海外生産の割合は順調に拡大
- ・営業利益では、既に約7割が海外

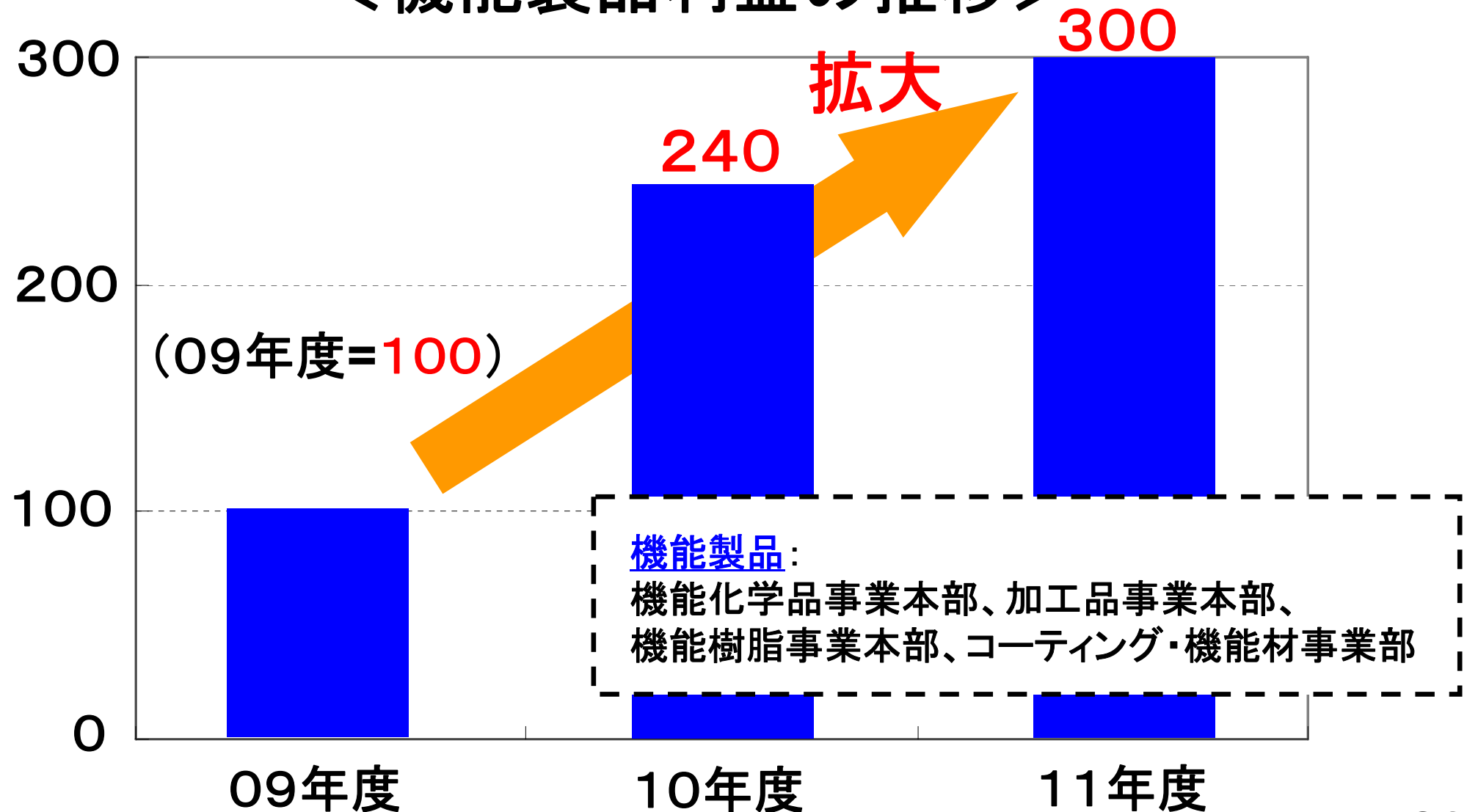
5.成長ドライバーの利益推移



着実に利益拡大

6.事業ポートフォリオの変革

<機能製品利益の推移>



11中計達成に向けて

環境変化に対応し、11中計戦略を
前倒し加速



- ◆ 着実にポートフォリオ変革を進める
- ◆ 真のグローバル化を目指す



MITSUI CHEMICALS, INC.

(完)

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

＜参考＞“5－5－5戦略”の成長ドライバー

重点5事業	世界トップ5事業	育成5領域
<ul style="list-style-type: none"> ・機能フィルム、機能シート、不織布 ・コーティング・接着剤 ・エンプラ・コンパウンド ・精密化学品 (ヘルスケア、触媒) ・農業化学品 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェノール・チェーン (フェノール、BPA) ・PO系コンパウンド (PPコンパウンド/アドマー) ・エラストマー (タフマー/EPT) ・メタロセンポリマー (エボリュエ) ・高屈折率メガネレンズ (MRシリーズ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子・情報フィルム ・次世代機能化学製品 (次世代農薬、歯科材料) ・太陽光発電用部材 ・エコ自動車材 (軽量化材、LiB部材) ・バイオマス化学品

<参考> エラストマーの拡大

◇タフマー

- ・ シンガポール第2プラントスタート
(10万ト_n、10年3月)
- ・ 生産能力15→25万ト_nにより**グローバルトップ強化**
(シンガポール20、日本5)
- ・ **更なる能力増強を検討中**



◇EPT

需要旺盛によりタイトな状況継続

⇒ Sinopec/JV計画(7.5万ト_n、14年)のスピード

アップを図り**早急に15万ト_n体制を確立**